

不祥事根絶のための行動計画

三次市立作木中学校
作成責任者 校長 米丸康司

【 チームで信頼される学校づくり 】

- (1) 生徒の心に寄り添い、信頼される教職員になります。
 (2) 目的達成のため組織的・協働的に動く教職員になります。
 (3) 自ら学び続け、新たなものに積極的に挑戦する教職員になります。
 (4) 教育公務員としての自覚と誇りを持ち、保護者・地域と協働して、生徒と共に夢の実現にチャレンジする教職員になります。

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
職員の 規範意識の確立	○常に高い規範意識を持ち、行動する。	○「当たり前のこと」をやりきる。 ○机上の整頓やより良い生徒や保護者との関係づくりなど、日常の教職員としての自覚を高める。	○年度始めに研修計画を確認するとともに、月中行事予定・週間行事予定にも反映して当事者意識を高める。 ○全ての教職員を対象に服務研修に係るアンケート調査を行い、方法や内容等を改善する。 ○不祥事防止委員会を中心として、より効果的な研修内容を検討し実施する。 ○職員同士で声を掛け合う。	○年間計画に基づき、不祥事防止委員会を月1回開く。
学校組織としての 不祥事防止体制の確立	○組織的で計画的な公務運営・職務遂行。	○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、組織で仕事を進めることができるようにする。 ○組織内の仕事の分担を明確にし、平均化する。	○学年会や各委員会等で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。 ○分掌会等の定期開催を可能にするための時間を確保する。(部活動休養日の活用、時間割の調整等)	○企画委員会にて取組状況の確認を毎月行う。 ○7月・12月に職務に関するアンケートを実施する。 ○毎学期末に体罰・セクハラ等に関する生徒・保護者の紙上調査を実施する。
相談体制の充実	○「体罰やセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、障害などを理由とする差別相談窓口」の周知を行っているものの、相談がない。 ○全ての保護者・生徒・教職員の学校への思いや願いの把握。	○「体罰やセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、障害などを理由とする差別相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。 ○保護者・生徒・教職員の意識を把握する。	○学校だよりで保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 ○生徒・保護者・教職員を対象とした、「体罰やセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、障害などを理由とする差別」のアンケート調査を行う。 ○学級担任・スクールカウンセラーによる全生徒の個人面談を行う。	○7月・12月のアンケート結果を集約し内容を分析し、職員で共有する。